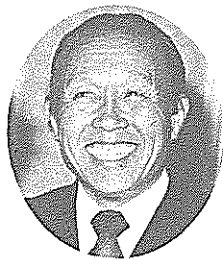


衛生委員会の思い出



高村祐行さん

高村祐行

(国分・元国府)
地区衛生委員

南国市衛生委員会は、全国に誇り得るすばらしい組織であると、私は今でも信じて疑いません。この制度は、昭和二十八年、旧国府村役場の中に設けられ、十名の衛生委員で発足しました。この戦後の混乱から八年、ようやく生活の安定の兆しが見え始めたころでしたが、法定伝染病、特に結核、チフス、赤痢など毎年のように多発していました。これを予防するためにつくられた制度です。昭和三十一年、町村合併で後免町となり、ますます大きな組織となって衛生委員会の活動が活発になってきました。まず、住民票の台帳を作り、衛生委員全員がこの台帳を常を持っていて、レントゲン検診の欠席者をチェックし一人ひとり呼び出して受診させました。

このため国府地区、岩地区など常時九〇以上の受診率でした。南国市となっても衛生委員会の活躍が上がり、南国市全体の受診率も常に八〇以上でした。今でもきつとこれくらいはいつていることでしょう。このころ、高知の方から結核予防会へ入らないかと、婦人の方が数名来られ会合を持ちましたが、南国市の方がより進んでいることが分かり、その傘下に入ることをお断りしたエピソードもあります。後免町時代はチフス、赤痢等の予防には、町役場で予算を組んでもらい、薬品を買ってもらい衛生委員が一家一家噴霧器やじょうろを持って便所、どぶなど消毒して歩きました。年間二度は一斉消毒でした。この無料でいたっていた薬品も南国市となってからは打ち切りとなり、大変困りました。



赤い羽根共同募金

買物客に

市長らが呼びかけ



初日には、市長らが買物客に募金を呼びかけた

南国市となつてからは、現南国市衛生委員長北村氏の熱心な組織づくりとご指導で現在の南国市衛生委員会ができました。北村氏がいなかったらこれだけの衛生委員会はできなかったのではないかと



私は思っています。当時の衛生課の課長さんたちが北村氏の熱心さと迫力にたじたとされていたことを思い出します。南国市の衛生委員会の歴史も三十年を超えました。衛生委員会の初期目的は達成しましたが、衛生委員会の仕事の本身は大きく変わりました。発足当時は何の心配もなかった廃品やちりとの闘い。特に廃品、ちりとの集積所の整理に大きな努力が必要となりました。市民の皆様も衛生委員さんのご苦勞を察して集積所は美しいように協

力を尽くしてまいりました。#まごころをとどけよう「赤い羽根共同募金」が、十月一日から始まりました。

初日には、午後四時から二時間市内四カ所のスーパーマーケットの店頭で、小笠原市長、岡崎俊一議長、社会福祉関係者ら五十人が買物客に募金を呼びかけました。

現在、南国市には百名をはるかに超す委員さんがおられます。緑の下の方持の仕事を、ご健康に留意し、ますますのご健闘をお願いします。

この日の街頭募金での善意は約八万円。

共同募金は、十月一日から十二月三十一日までの三ヶ月間行われ、特に十二月の一ヶ月間は「歳末たすけあい」もあわせて繰り広げられます。市民の皆さんのご協力をお願いします。